



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と  
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と  
ひ  
と  
ツムぐ学生

第44号

2017年8月23日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

## 夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.23

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、  
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

# シニアSPの「動き」

濱嶋さん、依田さん、大羽さん

この日は、愛知県の教員採用試験の日でした。大学4年のSPさんの多くは受験のため、来られませんでした。そのため、SPの数が少ないので、中村先生も、ラインを使って「シニアSPさんで都合のつく人は、現役SPを指導するという立場で手伝ってほしい」と呼びかけていました。(片葩SPでは、SPを経験して現場で活躍している先生を「シニアSP」と呼んでいます。)



午前中に、緒方さんをはじめ、多くのシニアSPが来てくれました。とても助かりました。このわくわく算数教室は、少人数でやることのメリットを最大限活かしています。その点でも、一人で受け持つ人数が、シニアSPさんの手伝いのおかげで少なくなるので、とても助かりました。また、シニアSPさんの関わり方を見ると、やっぱり違うんですね。現場を経験しているシニアの人には、歴然たる違いがあります。「現場でも相当がんばっているんだろうな」ということが伝わってきます。



依田さんは最高の笑顔で、子どもたちを受け入れていました。さらに、至学館のSPさんにも平気で声をかけていじっていました。「あれ？あのSPさんたち、知ってるの?」「いや、知らないっすよ」とてもフレンドリーなシニアです。

濱嶋さんは、開始前、大勢のSPさんに声をかけていました。そしてアドバイスを送っていました。「この子は、こういう子だから、こんな支援をするといいよ。」現役SPさんは、すごく安心していました。こういう現役SPへの支援ができる濱嶋さん、すごいです。



大羽さん。やさしく見守ったり関わったりしてくれました。1年半、全然合っていない子どもも「あ、先生だ」と、大羽さんのことを覚えている子もいました。もちろん、大羽さんも、大勢の子どもたちのことを今でも覚えてくれていました。「あの子、大きくなったなあ」シニアSPさんが、現役SPのとき、本当に深い関わりで子どもと接していたことがうかがいしれます。こうして、わくわく算数がすばらしい事業になっているのは、シニアSP

Pの方の存在、絆、受け継がれているもの…。そういうものがあるからなのだと再認識しました。

東浦中学校竹内稔博先生作成の「わくわく算数・数学教室通信第23号」を「ツムぐ学生」用に改編しました。